

囲 碁

茨城高校囲碁界の輝ける選手たち 一全国大会入賞者紹介一

平成十八年度	全国選抜大会 9路盤女子 全国優勝 石戸谷麻衣子（水戸南）	茨城高校囲碁界の「ゴールデンエイジ」平成17年度入学生の1人、石戸谷さんは、茨城女流アマの優勝を飾り、すでに茨城女流の第一人者となっていた。高校囲碁関東大会では9路を選び、14戦全勝で優勝。さらに、この年が第1回となった記念すべき大阪での全国高校囲碁選抜大会でも、9路盤15戦全勝！見事全国優勝を成し遂げ、茨城高校囲碁に大きな結果を残した。 茨城県勢の全国入賞は、平成4年の坂本修作君以来であった。
平成十九年度	全国選手権大会 男子団体 第7位 土浦一高（戸田智弘 藤間幸一 稲田裕允）	「ゴールデンエイジ」の1人である戸田君率いる土浦一高が、団体戦での入賞を果たした。藤間君、稲田君も力をつけて全国大会に臨み、1次リーグで優勝候補の一角、大阪上宮高校を下し、決勝トーナメントに進む。強豪ぞろいのトーナメントは苦戦したが、広島修道高校を下し、第7位入賞を果たした。
	全国高校総合文化祭 （島根大会） 団体戦 第4位 若柳諒（水戸南） 鶴飼啓介（常総学院） 石戸谷麻衣子（水戸南）	島根総文の茨城団体戦チームは、日本棋院の院生の経験者二人と茨城の女流代表という、優勝も狙える顔ぶれとなった。3連勝で迎えた4回戦、福岡に苦杯を喫して初日を3勝1敗で折り返すが、2日目、見事に連勝を果たし5勝1敗で第4位入賞を果たした。高校総合文化祭団体戦として初入賞であった。主将の水戸南の若柳君は、前年度の副将としての出場に続き、2年連続の全勝であった。
平成二十年度	全国高校総合文化祭 （群馬大会） 男子個人 第4位 加藤大地（伊奈）	伊奈高校の加藤君は、高校囲碁での活躍は3年生の半年間であったが、鮮烈な結果を残してくれた。総文祭は、代表に決まっていた選手の辞退、さらに次点の選手も辞退したことによる急遽の選出ではあったが、院生経験もあり、この年の選手権の県予選も優勝で、実力は県ナンバーワンは間違いなくあった。開始から実力を見せて、5連勝で最終戦に臨んだ。優勝も狙えるかと思われたが、同じく5連勝で勝ち進んできた長野の高津君に敗れ、第4位入賞となった。
平成二十六年	全国高校選手権大会 男子個人戦 第4位 全国高校総合文化祭 （茨城大会） 男子個人 準優勝 今野遼平（緑岡）	日本棋院の院生経験による規定により1年生の時は高校生の大会に出ることができなかった今野君は、一般の大会で、茨城の全てのタイトル（アマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ代表）を取るという快挙を成し遂げていた。 2年になって出場した高校囲碁選手権では、見事に実力を発揮。1次リーグでは、アマ名人戦全国4位の杉田君に勝つなどして、決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメントでも全国の強豪を相手に見事に勝ち進み、第4位入賞を果たした。 全国高校総合文化祭では、4戦目で敗れたが、自ら開会式で選手宣誓した通り、最後まで堂々と戦い、準優勝という結果を手に入れることができた。「茨城総文」最終日に、花を添えることができた。
平成二十七年	全国高校囲碁選手権大会 男子個人戦 第8位 今野遼平（緑岡）	3年生の今野君は、昨年手に入れることができなかった全国優勝を目指して、全国選手権と高校総合文化祭に臨んだ。選手権の初日は、強豪選手にも勝ち、ベスト8に進んだのだが、2日目は精彩を欠き、8位に終わった。総文祭でも3勝3敗に終わり、全国優勝は、高校では果たすことができなかった。
	全国高校総合文化祭 （滋賀大会） 団体戦 第4位 中泉安貴（土浦一） 時崎理志（竹園） 岩間百香（太田一）	今野君の活躍に刺激され、「茨城総文」実行委員として頑張った選手が活躍した大会であった。このチームは、男子個人戦に出場した今野君に比較すると全国レベルには届かず、大きな期待をされていたわけではなかった。ところが、大会が始まってみるとチームワークが良く、初日の4戦を全て2勝1敗、チーム4連勝で折り返した。徐々に期待が高まる中、2日目の5回戦は富山に0-3で負けてしまうが、最終戦、地元滋賀県との戦いに2-1と勝利し、見事5勝1敗、第4位入賞を獲得することができた。奇跡的な、そして感動の入賞となった。

記録：堀江信人（H15～H26：事務局長）